

平成 2 8 年 6 月 2 8 日現在

機関番号：3 2 6 3 0

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012 ~ 2015

課題番号：2 4 2 4 3 0 3 9

研究課題名 (和文) 高齢者医療・介護統合モデルの構築と政策への適用 - 日米欧 8 カ国の国際共同研究 -

研究課題名 (英文) Managing Integration of Long Term Care for elderly and Policy Implication

研究代表者

河口 洋行 (KAWAGUCHI, Hiroyuki)

成城大学・経済学部・教授

研究者番号：4 0 3 6 4 6 6 6

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 28,200,000 円

研究成果の概要 (和文) : 今後の高齢化による医療・介護サービスを効率よく供給するためには、この2つを統合するためのモデルが必要となる。この課題は、多くの先進国で同様に問題視されており、新しい統合モデルの開発競争が起きている。本研究では、一つの主要疾患に着目し関連する医療介護サービスを統合する「疾病管理モデル」として広島県呉市の事例を、幅広く医療と介護サービスを対象にする「慢性疾患モデル」としてはフィンランド国テンペレ市の Kotitori を対象として研究を実施した。また、そのための保障体制や関連の深いプライマリケア分野についても政策研究を行った。

研究成果の概要 (英文) : In order to efficient supply both health care and long-term care services in the aging society, the model for the integration of the two is necessary. This challenge has been a problem in many developed countries. Therefore, the development of innovative new integrated model is the matter. In this study, one of the model which focus on the main disease-related medical care services to integrate is "disease management model" at Kure city in Hiroshima prefecture. On the other hand, as a "chronic disease model" to target a wide range of medical and nursing care services is Kotitori model at Tempere city in Finland. In addition, it was also carried out a policy research for the financing system and primary care field for that models.

研究分野：医療経済学

キーワード：高齢者ケア 医療介護連携 疾病管理 プライマリケア 財政シミュレーション 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

増大する高齢者向け医療・介護費用をどのように制御するかは先進国共通の政策課題である。このためには、高齢者に多い慢性期疾患に対して、多種多様なサービスを適時適切に組み合わせて供給する仕組みが必要である。

日本では「地域包括ケア」という政策理念が既定されているが、この概念はあくまで既存の病院や訪問看護ステーションを前提として、その機能をどのようにネットワーク化するかが目玉である。

一方で、EU を中心として「ケアモデル」と呼ばれる、多職種のチームを核にして多様なサービスの組み合わせや順序を統合する新しい供給モデルの開発が急がれている。

2. 研究の目的

本研究では、この「ケアモデル」の新たな開発が目的である。また、ケアモデルの基盤となるプライマリケア分野の改善についても検討を行う。併せて、ケアモデルが対象とする高齢者の慢性期ケアに対する保障体制の検討を行う。

3. 研究の方法

(1)本研究では、まず基礎調査として日本に既に存在している先進的なケアモデルを3つ取り上げ、その検討を行った。
(2)第二に、慢性期疾患を管理するためには、ケアモデルを支えるインフラとしてプライマリケア分野を強化する必要がある。この点について、オランダや英国について検討した。
(3)第三に、高齢者医療で多く見られる慢性疾患に対する重症化防止の手法(いわゆる疾病管理)とその費用抑制効果を検討した。この点については仏国の公的医療保険において、疾病管理を導入した試行プロジェクトの責任者を招聘し、その実情や客観的評価について検討を行った。また、我が国の疾病管理の導入状況やその課題についても検討を行った。
(4)これらの検討課題について、単に日本国内で議論するだけでなく、最新の研究動向や意見交換を行うために、国際会議に参加したり、国際シンポを開催した。
具体的には、2013年7月に開催された国際医療経済学会(International Health Economics Association)の第10回世界大会(オーストラリア・シドニー)に参加した。主に医療経済学をベースにした高齢者ケア、疾病管理、費用推計手法などのセッションに参加し、情報を収集した。

2013年11月には国際統合ケア財団(International Foundation for Integrated Care)が開催した、世界統合ケア会議(シンガポール)に出席し、主に医療専門職が中心となった各国の統合ケアの現状について情

報を収集した。EUの共同研究プロジェクトであるproject INTEGRATIONや、シンガポール独自の試行プロジェクトSPICEなどが参考になった。

2014年9月には、これらの動向を踏まえて、日本の課題を国際シンポで討論した。第一セッションでは、英国インペリアル大学ロンドンのピータースミス教授より、英国NHSにおけるプライマリケア分野を利用した疾病管理の成果について報告が行われた。これに対して一橋大学井伊教授より、日本におけるプライマリケア分野の強化のための具体的な問題点について討論が行われた。

セッション2ではフィンランドのアールト大学リルランク教授より、新しいケアモデルとしてKotitoriモデルの理論的考察と実証研究における成果が発表された。これに対して広島大学森山教授より、広島県呉市におけるスーパーケアモデルなどの成果とKotitoriモデルとの比較が討論された。併せて成城大学河口教授より、当該討論を踏まえた具体的な政策提案が行われた。

セッション3では、オランダのエラスムス大学クリーフ教授より、管理競争モデルの慢性期疾患及び介護に対する応用の可能性に関する発表が行われた。これに対して、一橋大学田近教授より、オランダの制度に対する質問と日本における費用負担のあり方に対する討論が行われた。

最後に、科研費メンバー全員が参加したオープンディスカッションが行われ、3つのセッションにおける政策的な課題が討論された。

4. 研究成果

(1)第一に、我が国の高齢者ケアの先進モデルとして、広島県尾道市(医師会主導モデル)、埼玉県和光市(保険者主導モデル)、新潟県長岡市(住居事業者主導モデル)を取り上げ、この3つの事例研究を実施した。これらの先進モデルを公的介護保険制度の標準モデルと比較したところ、の保険者主導モデルが急速な高齢化が進む都市部を前提とした場合に、好ましい特徴を備えていることが暫定的な結論として導き出された。

(2)第二に、高齢者ケアに欠かせない初期治療(プライマリケア)体制に関する基礎調査である。このため、オランダ・英国の特徴や必要な制度整備などについて検討した。我が国においては、プライマリケア体制の核となる総合診療医(general practitioner)の養成やグループ・プラクティスの導入を検討する必要があることが判明した。また、プライマリケア分野における保障体制や品質に応じた支払制度(Pay for Performance)政策についても、特に特定の疾患において成果が見られることが判明した。

(3)第三に、高齢者医療で多く見られる慢性

疾患に対する重症化防止の手法（いわゆる疾病管理）とその費用抑制効果の検討では、仏国の公的医療保険において、疾病管理を導入した試行プロジェクトではまだ研究ベースでの成果は確認できなかった。しかし、日本の広島県尾道市（医師会主導モデル）では、糖尿病に対する重症化予防において、短期的にも医療費抑制効果があることが確認された。この点については、2015年7月に第11回国際医療経済会（イタリア・ミラノ）において発表した。

(4)上記の研究成果を踏まえた政策的示唆は、以下のようにまとめられる。第一に、プライマリケア分野においては、高度な技術を習得した看護師のチームを活用し、診療所の医師との協業が望まれる。第二に、保障体制においては現在のような事後の赤字補てん型の保障体制から、より精緻なリスク調整を実施した保険者間の公平な競争を促進することが必要である。第三に、ケアの統合を行う場合には、現状の保険者やケアマネジャーだけでなく、より高度な専門知識を持つ組織にアウトソースする道を拡大するべきである。第四に、統合ケアの品質を管理するために、品質に関する指標の設定や継続的なモニタリングなどの仕組みを同時に導入することが必要である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計14件）

Hiroyuki Kawaguchi, Peter C. Smith, The role of primary care and its incentivizing policy outcomes: The lessons from the U.K. experience, Japanese Journal of Health Economics and Policy, E3, 2016, (in press)

Richard van Kleef, Hiroyuki Kawaguchi, Long term care in the Netherlands: Towards managed competition?, Japanese Journal of Health Economics and Policy, E3, 2016, (in press)

河川洋行, 公的医療保険の不透明なリスク調整、週刊エコノミスト、査読無、93巻、2015、48-49

河川洋行・菅原琢磨、大病院の外来受診に関する仮想的効用値の測定に関する研究、経済研究、査読無、210巻、2015、163-196

井伊雅子・関本美穂、日本のプライマリケア制度の特徴と問題点、フィナンシャル・レビュー、査読無、123巻、2015、6-63

尾形裕也、地域医療構想と保険者の役割、健康保険、査読無、69巻、2015、10-21

河川洋行、「やさしい経済学 医療介護の課題」、日本経済新聞朝刊、2015.09.18～2015.09.29（健康資本、制度設計、医療介護人材、医療介護サービスの補完関係、民間保険、社会保険、リスク構造調整の7回連載）

Kana Kazawa, Yae Takeshita, Noriaki Yorioka, Michiko Moriyama, Efficacy of a disease management program focused on acquisition of self management skills in pre-dialysis patient with diabetic nephropathy: 24 months follow-up, Journal of Nephrology, Peer-reviewed, 2014, DOI 10.1007/s40620-014-0144-2

井伊雅子・森山美知子、高齢者に必要な医療・介護とは？国民健康保険のデータ分析からの提案、ECO-FORUM、査読無、29巻、2014、11-18

Hiroyuki Kawaguchi, Kaoru Tone, Miki Tsutsui, Estimation of the efficiency of Japanese hospitals using a dynamic and network data envelopment analysis model, Health Care Management Science, Peer-reviewed, Vol.17, 2014、101-112

Kana Kazawa, Michiko Moriyama, Effects of a self-management skills-acquisition program on pre-dialysis patients with diabetic nephropathy, Nephrology Nursing Journal, Peer-reviewed, Vol.40, 2013, 141-149

河川洋行、新たな高齢者向けケアモデルの国際的動向に関する研究 フィンランドのPALKOモデルと日本の公的介護保険制度、慶応経営論集、査読無、31巻、2013、25-35

関本美穂・井伊雅子、医師数、医療機関数、病床数、患者数のバランスから評価した医療資源の地域格差とその推移、厚生指標、査読有、60巻、2013、1-8

河川洋行、高齢者向け長期ケアの地域マネジメントに関する研究 ブループリント手法を利用した日本の3事例の比較より、医療と社会、査読無、22巻、2013、309-328

〔学会発表〕（計6件）

井伊雅子、医療のあり方を経済学で考える、第25回日本医療薬学学会、2015.11.23、神奈川県横浜市・パシフィコ横浜

尾形裕也、健康経営と病院経営、第53回

日本医療・病院管理学会学術総会シンポジウム、2015.11.06、福岡県福岡市・アクロス福岡

Hiroyuki Kawaguchi, Michiko Moriyama, Hideki Hashimoto, Is Disease Management Effective for Cost Containment?: New Evidence using Difference in Difference Analysis from Panel Data in Japan, 11th World Congress, International Health Economics Association, 2015.07.15, Bocconi University, Italy

加澤佳奈、鶴見恵子、沖田真奈美、森山美知子、保険者・医療機関と連携した慢性疾患重症化予防プログラムの効果、第52回日本医療・病院管理学会学術総会、2014.09.13、東京都江東区・有明コンベンションホール

Yae Takeshita, Michiko Moriyama, Development of a screening system for elderly who are at high risk of severe chronic disease at community-base in Japan, 3rd World Academy of Nursing Science, 2013.10.18, Soul, Korea

Hiroyuki Kawaguchi, Kaoru Tone, Miki Tsutsui, Estimation of the efficiency of Japanese hospitals using a dynamic and network data envelopment analysis model, 10th World Congress, International Health Economics Association, 2013.07.09, Sydney, Australia

〔図書〕(計2件)

河口洋行、日本評論社、医療の経済学(第3版)第6章「ダイエットはなぜいつも先送りされるのか」、2015、264(115-137)

尾形裕也、日本看護協会出版会、看護管理者のための医療経営学(第2版)、2015、160

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

河口洋行(KAWAGUCHI Hiroyuki)
成城大学・経済学部・教授
研究者番号: 40364666

(2)研究分担者

田近栄治(TAJIKA Eiji)
成城大学・経済学部・特任教授
研究者番号: 10179723

菊池潤(KIKUCHI Jun)
国立社会保障・人口問題研究所・社会保障基礎理論研究部・第3室長
研究者番号: 30506481

井伊雅子(II Masako)
一橋大学・経済学研究科・教授
研究者番号: 50272787

橋本英樹(HASHIMOTO Hideki)
東京大学・医学研究科・教授
研究者番号: 50317682

森山美知子(MORIYAMA Michiko)
広島大学・医歯薬保健学研究院・教授
研究者番号: 80264977

尾形裕也(OGATA Hiroya)
東京大学・政策ビジョン研究センター・特任教授
研究者番号: 90336016

(3)連携研究者

油井雄二(YUI Yuji)
成城大学・経済学部・教授
研究者番号: 70115153